Japanese Journal of Applied Psychology
2013, Vol. 39, No. 2, 157–164

2013年度第2回常任理事会：議事録

日　　時：2013年8月4日(日) 14時00分～16時45分
場　　所：日本体育大学中会議室
出 席 者：藤田主一理事長，谷口泰富副理事長
浮谷秀一，川本利恵子，齊藤　勇，大坊郁夫，内藤哲雄，深澤伸幸，藤森立男，向井希宏，蓮花一己
事 務 局：齋藤雅英（事務局長），宇部弘子（幹事），本間悠也（幹事）　（敬称略）

I　報告事項

1. 理事長の挨拶（藤田理事長）
・常任理事の先生方へ感謝の言葉が述べられた。

2. 各委員会報告

1）機関誌編集委員会（深澤委員長）
・『応用心理学研究』第39巻第1号を現在印刷している。そのため，お盆頃には会員に配布できる見込みである。
・査読の進捗状況について，例年は20本の投稿であったが，電子投稿システムの導入により現在までに13本の投稿があり，査読も順調に進行している。

2）企画委員会（藤森委員長）
・今年度の公開シンポジウムは，12月7日(土) 13時30分～16時，東京未来大学にて開催される。テーマは「Well-being の心理学」に決定した。

3）広報委員会（浮谷委員長）
・『応用心理学のクロスロード』No. 6の準備に取りかかっている。内容は第80回記念大会についての特集を大きく取り上げる。発行は年内を目指す。
・笹川科学研究助成金の案内があった。そのため，情報をメールニュースにて会員にお知らせすることにした。

4）「応用心理士」認定審査委員会（内藤委員長）
・2013年度前期の申請書類が揃い次第，審査を開始する。

5）国際交流委員会（蓮花委員長）
・若手研究者支援委員会と連携し，第28回国際応用心理学会（ICAP2014）への大会参加補助企画を順次進めていく。情報が更新され次第，大会や学会HPにて公開する。

6）若手研究者支援委員会（向井委員長）
・国際交流委員会との連携で，第28回国際応用心理学会（ICAP2014）への大会参加補助企画を順次進めていく。企画内容は，研究発表する本学会会員の中から，審査を経た後，35歳以下の若手研究者（4名）に対して大会参加費の一部が補助（7万円）されるというものである。

7）学会賞選考委員会（川本委員長）
・学会賞（論文賞，奨励賞）についての投票状況が報告された。

8）学会活性化委員会（大坊委員長）
・今後の短期的方略，長期的方略について話題が挙げられた。今後は具体的に取りかかれる内容から順次着手していく。

9）倫理委員会（谷口委員長）
・なし

3. 日本心理学諸学会連合について（齊藤担当常任理事，大坊心理学検定担当委員）
・日心連での報告事項，審議事項についての報告がなされた。
・今年度の心理学検定は3,640名であった。これは昨年度と比較して650名増である。

4. 2013年度第80回記念大会について（藤田大会委員長）
・大会委員長より大会プログラムの回覧があり，構成の確認がされた。
・常任理事会，理事会の確認事項について説明がなされた。
・学会主催の大会セレモニーについての構成の確認がされた。
・「体罰のシンポジウム」について，メディアからの取材依頼があった。

5. その他
・大会第80回を記念した学会企画書籍のうち「犯罪」の巻が出版された。来年の大会までには全7巻が発刊される予定である。
・モバイル学会より協賛依頼があった。

II　審議事項

1. 新入会員審査および会員異動に関する件
・下記の6名の新入会者の申し込みがあり，審

議の結果すべてが承認された（敬称略）。
岡田将次，小川　将，田中　力，出口保行，名久井孝太，松岡貴子
なお，2013年7月30日現在の会員数は，正会員1,229名・学生会員6名・名誉会員38名・終身会員36名・賛助会員2名の合計1,311名である。

2. 終身会員審査の件
・下記の5名の終身会員の申し込みがあり，審査の結果3名が承認された。（敬称略）
なお，長塚康弘は名誉会員，長町三生は終身会員であるため，審査にあたらない。
終身会員：岸田孝弥，橋元慶男，中村　完。

3. 2012年度決算案の件
・事務局委託費が前年と比較して高額になっているため，詳細を確認する。まだ報告がなされていない委員会があるので，早急に報告するよう依頼された。

4. 学会賞の承認の件
・推薦があった学会賞（論文賞，奨励賞）の対象論文が承認された。学会の総会にて表彰する。

※次回の常任理事会は，9月15日(日) 11時45分から日本体育大学で開催する予定である。

2013年度理事会：議事録

日　　時：2013年9月13日(金) 午後2時00分～午後4時00分
場　　所：日本体育大学大会議室
理　　事：藤田主一理事長，谷口泰富副理事長，伊坂裕子，浮谷秀一，臼井伸之介，尾入正哲，角山　剛，軽部幸浩，川本利恵子，北川公路，木村友昭，楠本恭久，齊藤勇，大坊郁夫，田之内厚三，内藤哲雄，濱　保久，松浦常夫，深澤伸幸，藤森立男，細江達郎，松下由美子，松田浩平，向井希宏，森下高治，森脇保彦，蓮花一己（以上27名）
監　　事：沢宮容子，高橋良博
名誉会員：山岡　淳
事 務 局：齋藤雅英（事務局長）

1. 理事長ならびに第80回記念大会委員長挨拶（藤田理事長・大会委員長）
・本理事会に出席された先生方および，本大会を開催するにあたりご尽力いただいた先生方に感謝の言葉が述べられた。
・会員サービスの向上が会員増につながっており，さらなるサービスの向上のため今後会費のみなおしも議論していく。
・名誉会員の中川大倫先生がご逝去され，哀悼の意が捧げられた。

2. 報告事項
(1) 第79回大会報告（濱第79回大会委員長）
総会に約130名，懇親会に約120名など多数の参加となった。前日まで計算上赤字の予定であったが，当日参加が多く赤字を出すことなく無事終了することができた。この時期は台風などのリスクがあるため，特に地方には予算等について考慮していただきたい。
(2) 事業報告
1) 会員の異動および会費納入状況（齋藤事務局長）
・会員数は，2013年9月10日現在で，昨年末から50名増加した。
・2013年度の会費納入率は2013年9月10日現在66%である。
・2013年9月10日現在の会員数は1,308名である。
2) 委員会報告
①機関誌編集委員（深澤委員長）
・平成24年度投稿原稿本数は19本であった。
・2013年9月10日現在，平成25年度投稿原稿本数は18本であり半期であり前年度を上回るペースである。
・平成24年度は3号を刊行済みである。
・平成25年度は39巻第1号を8月中旬に配布済みである。
・現在，第39巻第2号の編纂作業に入っている。
・本年度の4月から電子投稿システムへ順調に移行していることから平成26年3月で郵送による投稿を終了したい。
②企画委員会（藤森委員長）
・平成24年度の活動報告の概要が述べられた。
・今大会の研修内容について紹介がなされた。
・今年度のシンポジウムについて紹介がなされた。平成25年12月7日(土) に東京未来大学

において，「well-being の心理学～今，そしてこれからの well-being 研究の応用・実践～」をテーマに開催される予定となっている。

③広報委員会（浮谷委員長）

・『応用心理学のクロスロード』Vol. 05 を 2012 年 12 月に発行した。2013 年 12 月に Vol. 06 を発行予定である。

・メールニュース配信の増加や HP による情報提供によって会員サービスを向上させている。

・メールをお持ちでない会員へのサービスについて議論を重ねている。

・会費未納の会員に対しては，現在請求のための郵送費がかかっているため，メールニュースに会費納入状況を記載するかどうかについても議論をしている。

④「応用心理士」認定審査委員会（内藤委員長）

・2012 年度後期の認定者 6 名であった。

・2013 年度前期の申請者は 7 名であった。認定審査を終え，認定料の納入が確認できれば事務手続きを終える。

・応用心理士会の設立について検討している。資金の問題などが現在の検討事項である。

⑤国際交流委員会（蓮花委員長）

・主として国際応用心理学会の推進を中心に活動している。

・メルボルンの大会ではシンポジウムを企画し，4 年連続で企画している。

・費用や参加者が限定的，日本人の割合が多いなどの課題があり，国際的ではないという反省がある。

・第 28 回のパリ大会では別のかたちでの活動を検討している。

・若手研究者支援委員会と連携して活動しており，すでに HP でその内容を広報している。若手研究者支援委員会と合同で 35 歳以下の会員で発表する者を対象に 4 名を採択し，ひとり 7 万円程度を援助する。2014 年 2 月がアクセプト締切りのため，その後に募集して審査を行う予定である。この内容を英文特集へとつなげていく。

⑥若手研究者支援委員会（向井委員長）

・他学会の動向や情報を入手しながら若手支援の在り方を検討している。

・国際交流委員会と共同で若手の国際学会での発表を支援していく。

・若手にどのような支援が必要かについて，広く意見を求めていく。

⑦学会賞選考委員会（優秀大会発表賞を含む）（川本委員長）

・理事・監事に依頼し，学会賞の論文賞と奨励賞について選考を進めた。

・優秀大会発表賞は 7 件であり，メールニュースですでに配信済である。

・投票数を増やすため，各領域 1 件投票するように変更する。

・無記名で理事・監事には投票を義務付けてはどうかとの意見も出たが，まずは投票数を伸ばすことを優先し，今後その他の方法について検討することとなった。

⑧学会活性化委員会（大坊委員長）

・学会には，2013 年 3 月に現在の財政状況を打開して活性化をはかる必要があるという内容で中間意見を答申している。

・答申に関しては，短期・中期・長期の方略について記載し，早急に実施できる内容についても記載されており，その詳細について説明がなされた。

⑨倫理委員会（谷口委員長）

・委員会が未開催であり，報告する事項はなかった。

3）日本心理学諸学会連合（齊藤担当常任理事）

・日心連の会議は年 2 回，6 月と 12 月に開催されている。

・日本心理研修センター設立が大きな出来事であった。センターは日心連とは独立しているとなっているが，両者の関連は非常に深い。

・心理職の国家資格化の問題が報告された。名称は未定である。12 月の会議で大枠が決定し，大学院の共通カリキュラムが了承されたが確定ではなく，今後研修センターで検討するとなっている。

・4 月 14 日に日本心理研修センターが設立された。日心連のメンバーが中心であり，村瀬嘉代子先生が理事長となった。記念フォーラムには国会議員の鴨下一郎議員，公明党の議員，経団連，医師会会長，後援として厚生労働省，

文部科学省の課長が出席して開催された。この研修センターが国家資格関連の業務を実行する。夏にはすでに研修が開かれている。

4）心理学検定について（大坊担当常任理事）

・今年度の心理学検定は8月25日(日）に行われた。受検申し込みが者数は3,641名であった。毎年500名ほど受検者数が増えている。団体受検も増加している。今後もさらなる受検者数を確保するための検討を行っている。

5）その他

・応心大会の80回を記念して学会企画の図書を全7巻で刊行する。来年度までには完成予定である。

3. 審議事項

（1）2012年度決算に関する件（齋藤事務局長）

・決算書に基づいて説明があった。

・監事による監査報告があった。

（2）2013年度予算に関する件（齋藤事務局長）

・予算案に基づいて説明があった。

・特別企画積立金を50万円取り崩している。

・英文特集号は今年度刊行されないため計上していない。

・機関誌投稿システムの本格導入により，今年度から60万円を計上している。

・印刷費と通信費のその他を5万円ずつ減額している。

・常任理事交通費を25万円減額している。

（3）2015年度第82回大会委員長（大会当番機関）に関する件（藤田理事長）

・角山剛先生（東京未来大学）に大会委員長を依頼することが提案され承認された。その後挨拶の言葉が述べられた。

4. 2014年度第81回大会委員長挨拶（向井大会委員長）

・向井大会委員長より，理事会の先生に対して，第81回大会の概要と挨拶の言葉が述べられた。

2013年度総会議事録

日　　時：2013年9月14日(土）11時15分～12時15分

場　　所：日本体育大学教育研究棟2階　1201教室

司会進行：齋藤雅英事務局長

Ⅰ　理事長の挨拶（藤田主一理事長）

Ⅱ　第80回記念大会委員長挨拶（藤田主一大会委員長）

・会員へ感謝の言葉が述べられた。

Ⅲ　議長選出（齋藤雅英事務局長）

・大会委員長が理事長を兼任しているため，主催校である日本体育大学の楠本恭久理事が選出された。

Ⅳ　報告事項

1. 事業報告

（1）会員の異動および会費納入状況（齋藤雅英事務局長）

・2013年9月10日現在，会員数1308名，2013年度会費納入率は66%である。

（2）委員会の報告

1）機関誌編集委員会（深澤伸幸常任理事）

・平成24年度投稿原稿本数19本のうち，掲載済論文は2本，掲載予定論文は6本，審査中論文は5本である。

・平成25年度より電子投稿システムが開始され，投稿原稿本数18本のうち，掲載予定論文3本，審査中論文15本である。

・現在第39巻第2号の編集作業に入っている。

・平成26年3月末をもって，郵便物による投稿原稿受付を終了する予定である。

2）企画委員会（藤森立男常任理事）

・第79回大会において，山岡　淳先生，蜂屋真先生による研修会を実施した。

・2012年12月2日(日）に公開シンポジウム「トップアスリートに役立つメンタル・マネジメント」を日本体育大学で開催した。

・第80回記念大会において，永田良昭先生，今城志保先生による研修会を実施する。

・2013年12月7日(日）に公開シンポジウム「well-being の心理学～今，そしてこれからのwell-being 研究の応用・実践～」を東京未来大学にて開催する予定である。

3）広報委員会（浮谷秀一常任理事）

・2013年12月に『応用心理学のクロスロード』Vol. 06の発行を予定している。

4）「応用心理士」認定審査委員会（内藤哲雄常任理事）

・現在，2013年度前期分の審査を行っている。

5）国際交流委員会（蓮花一己常任理事）
・2014 年 7 月に開催される第 28 回国際応用心理学会への参加費の一部を若手研究者（35 歳以下）4 名に対して支援を行う予定である。
6）若手研究者支援委員会（向井希宏委員長）
・国際交流委員会と連携して進めている。
7）学会賞選考委員会（優秀大会発表賞を含む）（川本利恵子常任理事）
・本年度から学会賞は 2 部門（論文賞，奨励賞）に分けて学会賞選考を行い，論文賞は「Development of an Evaluation Scale for the Care of Cancer Patient' Families in General Wards」（Satoko CHO and Reiko KAWAMOTO），奨励賞は「原子力発電に関する政府への信頼の規定因：政治的集合効力感と市民の関係性認知に着目した分析」（塩谷尚正・土田昭二・辻川典文）が受賞した。
8）学会活性化委員会（大坊郁夫常任理事）
・日本応用心理学会の活性化をめざし，まずは支出の見直しの検討を行っている。
9）倫理委員会（谷口泰富常任理事）
・報告はなし。
2. 日本心理学諸学会連合（齊藤勇常任理事）
・日本心理研修センターとの連携により，国資格（心理師）の実現を進めている。
3. 心理学検定報告（大坊郁夫常任理事）
・第 6 回心理学検定が行われ，申込み数はこれまでの最高で 3636 名，全国 23 会場で実施された。第 7 回に向けて，今後さらに周知していく予定である。
4. 2012 年度第 79 回大会報告（濱保久大会委員長）
・濱　保久大会委員長より第 79 回大会の開催について，感謝の言葉が述べられた。
5. その他
・藤田大会委員長より，第 80 回記念大会企画に関するアナウンスがあった。

Ⅴ　審議事項
1. 2012 年度決算に関する件（齋藤雅英事務局長）
・2012 年度の決算書（別紙）の説明があり，高橋監事から適正に処理されているとの会計報告があった。審議を経て承認された。
2. 2013 年度予算に関する件（齋藤雅英事務局長）
・2013 年度の予算案（別紙）の説明があり，審議を経て承認された。
3. 2015 年度第 82 回大会委員長（大会当番機関）に関する件
・2015 年度第 82 回大会は，東京未来大学（角山剛大会委員長）で開催されることが提案され，承認された。

Ⅵ　議長退任（齋藤雅英事務局長）

Ⅶ　学会賞表彰（藤田主一理事長）
・藤田理事長より受賞された研究者に表彰状が授与され，その後受賞者による挨拶があった。

Ⅷ　2014 年度第 81 回大会委員長挨拶（向井希宏大会委員長）
・第 81 回大会に向けて現在準備を進めているところである。日程は，2014 年 9 月 22 日(土)–23 日（日）を予定している。

2013 年度第 3 回常任理事会：議事録

日　　時：2013 年 9 月 15 日(日) 11 時 45 分～12 時 45 分
場　　所：日本体育大学中会議室
出 席 者：藤田主一理事長，谷口秦富副理事長
浮谷秀一，川本利恵子，深澤伸幸，藤森立男，向井希宏，齊藤　勇，大坊郁夫，内藤哲雄
事 務 局：齋藤雅英（事務局長），鈴木悠介（幹事）
（敬称略）

Ⅰ　報告事項
1. 理事長の挨拶（藤田理事長）
・常任理事の先生方へ感謝の言葉が述べられた。
2. 各委員会報告
1）機関誌編集委員会（深澤委員長）
・平成 24 年度投稿原稿本数は，19 本であった。
・平成 25 年度投稿原稿本数は，平成 25 年 9 月 10 日現在で 18 本であり，電子投稿の結果，投稿本数の増加が見込まれている。
・平成 26 年度 3 月末をもって，郵送による原稿投稿は終了する予定であり，今後周知していく予定である。
2）企画委員会（藤森委員長）
・報告はなし。
3）広報委員会（浮谷委員長）
・報告はなし。
4）「応用心理士」認定審査委員会（内藤委員長）

・報告はなし。

5）国際交流委員会

・若手研究者支援委員会の向井委員長より，来年の国際応用心理学会に向けて，連携を図っているとの旨，報告があった。

6）若手研究者支援委員会（向井委員長）

・報告はなし。

7）学会賞選考委員会（優秀大会発表賞を含む）（川本委員長）

・優秀大会発表賞の投票をしていただけるよう会員に呼びかけを行っている。

8）学会活性化委員会（大坊委員長）

・理事会，総会では詳細な説明をしなかったが，答申案を会員に知っていただくことが必要なので，理事長の了解もいただいたので，学会ニュースとして発信していただくことになった旨の報告があった。なお，委員長から答申内容は多岐に渡っているが，当該委員会にて付度していただき，実現していくべきことであるとの発言があった。

9）倫理委員会（谷口委員長）

・報告はなし。

3. 日本心理学諸学会連合について（齊藤委員長）

・総会にて報告済である。

4. 心理学検定（大坊担当委員）

・報告はなし。

5. 2013年度第80回記念大会について（藤田大会委員長）

・大会参加者などの詳細は，次回常任理事会にて報告をする。

Ⅱ　審議事項

1. 新入会審査および会員異動に関する件

・1名の新入会者の申し込みがあり，審議を経て承認された（敬称略）。

川田裕次郎

※次回の常任理事会は，12月7日(土) 11時から東京未来大学にて開催する予定である。

日本応用心理学会　2012 年度決算書

（2012 年 4 月 1 日～2013 年 3 月 31 日）

収入			支出		
項目	決算額	予算額	項目	決算額	予算額
会費	5,970,000	6,060,000	大会補助費	700,000	700,000
過年度分 *（72 名）	438,000	480,000	学会賞	60,000	60,000
* 学生会員 2 名を含む			心理学諸学会連合会費	60,000	60,000
本年度分 **（921 名）	5,532,000	5,580,000	シンポジウム・講演費謝金	200,000	200,000
** 学生会員 2 名含む			研修会講師謝金	60,000	60,000
賛助会費（過年度分を含む）	20,000	30,000	英文特集号関係諸費	998,760	1,000,000
「応用心理士」関係	360,000	600,000	委員会活動費	335,716	950,000
審査料	90,000	150,000	機関誌編集委員会	114,134	200,000
認定料	270,000	450,000	企画委員会	113,883	200,000
			広報委員会	24,759	100,000
機関誌売り上げ	422,500	450,000	「応用心理士」認定審査委員会	32,770	150,000
（定期購読・バックナンバー）			国際交流委員会	1,850	100,000
			若手研究者支援委員会	0	50,000
雑収入	278,907	100,000	学会賞選考委員会	48,320	50,000
（クロスロード広告料、利子等）			学会活性化委員会	0	50,000
			倫理委員会	0	50,000
前年度繰越金	1,023,073	1,023,073			
			印刷費	2,396,887	2,650,000
			機関誌	1,799,595	2,000,000
特別企画積立金取崩	0	0	広報関係	450,000	450,000
英文特集号作成積立金取崩金	998,760	1,000,000	その他	147,292	200,000
			通信費	623,817	630,000
			機関誌郵送費	353,920	300,000
			広報関係郵送費	117,177	130,000
			その他	152,720	200,000
			常任理事交通費	872,920	900,000
			事務局運営費	250,396	200,000
			事務局委託費	758,528	700,000
			英文特集号積立金	500,000	500,000
			選挙関連費用	0	0
			特別企画積立金	0	0
			機関誌電子投稿システム費	200,000	200,000
			予備費 *	77,280	453,073
			次年度繰越金	978,936	0
合計	9,073,240	9,263,073	合計	9,073,240	9,263,073

* 英文校正代金 = ¥ 77,280

《別途会計》

1. 特別企画積立金

2011 年度繰越金	2,500,000
2012 年度積立金	0
	2,500,000

2. 若手育成基金

2011 年度繰越金	2,155,992
2012 年度支援金	－114,840
	2,041,152

3. 英文特集号作成積立金

2011 年度繰越金	500,322
2012 年度積立金	500,000
2012 年度取崩金	－998,760
	1,562

以上の通り相違ありません。

平成 25 年 9 月 13 日　監事　高橋　良博 ㊞

平成 25 年 9 月 13 日　監事　沢宮　容子 ㊞

日本応用心理学会　2013 年度予算案

（2013 年 4 月 1 日～2014 年 3 月 31 日）

収入				支出		
項目	予算額		前年度決算額	項目	予算額	前年度決算額
会費	5,880,000		6,060,000	大会補助費	700,000	700,000
過年度分	300,000	50 名	480,000	学会賞	60,000	60,000
本年度分	5,580,000	930 名	5,580,000	心理学諸学会連合会費	60,000	60,000
				シンポジウム・講演費謝金	200,000	200,000
賛助会費	20,000		30,000	研修会講師謝金	60,000	60,000
				英文特集号関係諸費	0	1,000,000
「応用心理士」関係	400,000		600,000			
審査料	100,000	10 名	150,000			
認定料	300,000		450,000	委員会活動費	950,000	950,000
その他	0		0	機関誌編集委員会	200,000	200,000
				企画委員会	200,000	200,000
機関誌売り上げ	420,000		450,000	広報委員会	100,000	100,000
雑収入（クロスロード・利子・書籍）	200,000		100,000	「応用心理士」認定審査委員会	150,000	150,000
前年度繰越金	978,936		1,023,073	国際交流委員会	100,000	100,000
				若手研究者支援委員会	50,000	50,000
特別企画積立金取崩金	500,000		0	学会賞選考委員会	50,000	50,000
				学会活性化委員会	50,000	50,000
英文特集号作成積立金取崩金	0		1,000,000	倫理委員会	50,000	50,000
				印刷費	2,600,000	2,650,000
				機関誌	2,000,000	2,000,000
				広報関係	450,000	450,000
				その他	150,000	200,000
				通信費	580,000	630,000
				機関誌郵送費	300,000	300,000
				広報関係郵送費	130,000	130,000
				その他	150,000	200,000
				常任理事交通費	750,000	900,000
				事務局運営費	200,000	200,000
				事務局委託費	800,000	700,000
				英文特集号積立金	500,000	500,000
				特別企画積立金	0	0
				機関誌電子投稿システム費	600,000	200,000
				予備費	338,936	453,073
				次年度繰越金	—	—
小計	8,398,936		9,263,073	小計	8,398,936	9,263,073

《別途会計》

1. 特別企画積立金

2012 年度繰越金	2,500,000
2013 年度取崩金	−500,000
	2,000,000

2. 若手育成基金

2012 年度繰越金	2,041,152
2013 年度支援金	−114,000
	1,927,152

3. 英文特集号作成積立金

2012 年度繰越金	1,564
2013 年度積立金	500,000
	501,564